THE SUISHI-NEWS

月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

５６２号　　令和５(2023)年５月

ワカメのフリー種糸の養殖試験について

漁業生産研究所　栽培漁業グループ

ワカメ養殖は、ワカメの幼芽が生えた種糸を巻きつけたロープを海中に張ることによって行います（図１）。当グループでは、種糸の管理期間の短縮を目的にフリー配偶体を用いた種糸（フリー種糸）の生産技術の開発と実用化に取り組んでいます。

2021 年度までに、フリー種糸で従来の種糸と遜色なくワカメが収穫可能であることを師崎漁協地先で確認しました。2022 年度は他の漁場（篠島、美浜町、豊浜、西三河）においても養殖可能か検証するため、漁業者にフリー種糸を試験配付し、養殖していただきました。

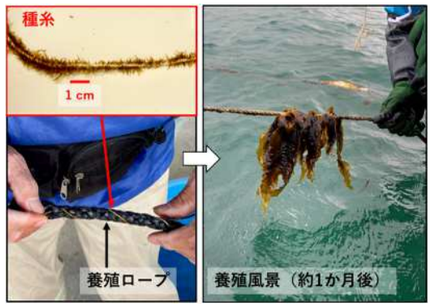

図１　ワカメ養殖の方法

漁期終了後に行ったアンケート結果では、フリー種糸をまた使いたいと約 8 割の漁業者が答えました（図２）。その理由として、フリー種糸は生長が早く、早期に出荷可能である、という声が多く聞かれました。過去の試験では、フリー種糸由来のワカメは葉が薄い、茎が細長い、という指摘もありましたが、今回の試験配付においては、従来の種糸とほぼ同等のワカメが収穫できました（図３）。以上のことから、フリー種糸は県内各漁場で養殖可能と考えられ、従来の種糸より早期収穫が可能であることが示唆されました。

一方、フリー種糸は芽付きが濃く（図３）、間引き作業に手間がかかる等の問題もあるとの意見がありました。水試地先の養殖試験では芽付きの薄い種糸の方が初期の生長が良いことが明らかになっています（水試ニュース 560 号）。以上のことから、今後は芽付きの薄いフリー種糸を用いて、養殖試験を継続していきます。

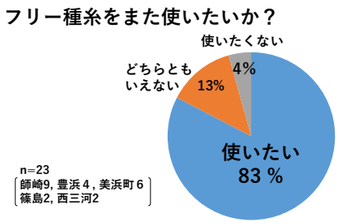

図２　フリー種糸を使用した感想

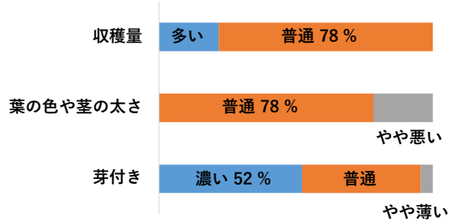

図３　従来の種糸との比較

今年の矢作川天然遡上アユの状況

内水面漁業研究所　内水面養殖グループ

矢作川水系 4 漁協は矢作川下流部の藤井床固めで天然遡上アユを採捕してダムや堰堤により遡上できない上流に汲み上げ放流しています。これまでの採捕結果から、3 月の採捕量（kg）と体サイズ（g）が把握できれば、その年の総採捕量と採捕サイズが推定できることが分かっています。2009 年からの総採捕量の推定値、実績値の変化を図４に示しました。今年の総採捕量推定値は 641 kg とされ、この推定値は過去 5 年間（2018～2022 年）の平均採捕量（472 kg）より 36%多く、過去（14 年間）の平均総採捕量（684 kg）より 6%少ない値です。また今年の採捕サイズは 0.9～4.7g で例年並みと推定されました。

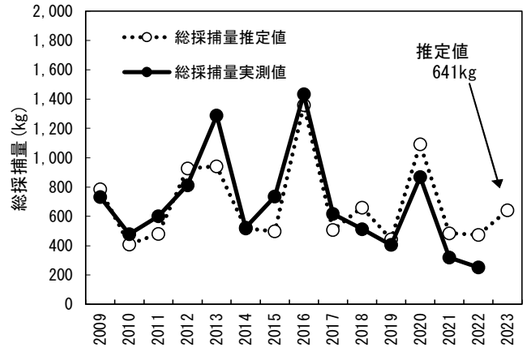

図４　矢作川遡上アユの総採捕量の推定値、実測値の推移

よって、今年の矢作川の遡上アユは量、体サイズともに例年並みで、河川環境が良ければ、例年並みの釣果が期待できそうです。

愛知の水産研究活動報告会のご案内

本場　企画普及グループ

本県水産業の振興に寄与することを目的として、毎年、愛知の水産研究活動報告会を開催しています。本報告会では、漁業協同組合の青年部・研究グループ及び漁業士などの漁業者が参集し、日ごろの研究活動や成果を発表します。この報告会を通し、相互の知見の交換や、活動意欲の向上、活動成果の普及が図られます。本年度は、下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

記

日時：令和５年６月１０日（土）午後２時から午後４時まで
場所：愛知県水産会館　5階　大会議室
　　名古屋市中区丸の内　3－4－31
主催：愛知県、愛知県漁業協同組合連合会
後援：東日本信用漁業協同組合連合会愛知支店、公益財団法人　愛知県水産業振興基金
報告内容（予定）：
　・のり漁場におけるアサリ中間育成の検討（大井漁協青年部）
　・西三河地区におけるシングルシード式カキ養殖試験について（西三河漁協所属）
　・抱卵ガザミの保護活動について（蒲郡市漁協青年部連絡協議会）
体験発表・話題提供（予定）：
　・6次産業化モデルによる地域活性化の研究　～絹姫サーモンを用いた新商品開発～（三谷水産高校水産食品課３年）

https://www.pref.aichi.jp/suisanshiken/

愛知県

本　　場	蒲郡市三谷町若宮 97	0533-68-5196
漁業生産研究所	知多郡南知多町大字豊浜字豊浦 2-1	0569-65-0611
内水面漁業研究所	西尾市一色町細川大岡一の割 56-6	0563-72-7643
三河一宮指導所	豊川市豊津町柳不呂 95	0533-93-1433
弥富指導所	弥富市前ヶ須町野方 801-2	0567-65-2488